



YAMATO Yuka

Cane Project
2013~2019

湿原の杖

2010年

ガラス瓶、筆、水、インク、

アクリル絵具など

サイズ可変

新宿眼科画廊（東京）



画面を土地、そこに絵具をのせていく筆を杖に喩えたインスタレーション作品。
タイトルの「湿原」とは、まだ乾いていない可変性のある画面の比喩である。
一つ目の展示室で、杖をついているような角度で筆が設えられたガラス瓶を並べた。
二つ目の展示室では、一つ目のガラス瓶に溜められていた絵具を使って作られた平面作品がある。

展示室をめぐるなかで、絵具の濡れ／乾きの間にある空気や時間を感じさせる。



絵皿／宿营地

2010年 直径30cmのガラス皿、紙、アクリル絵具





土地 / 湿原の杖に依って 210×142×6cm 石粉粘土、インク、アクリル絵具など



<detail>



立つこと - 杖

2008 年

ステンレス、アクリル絵具

17×h17cm くらいの三角錐



起伏についての日録
Diary about the Undulations

2013年

杖、灰水、モーター、蚊帳、石膏、石鹼、どくだみ、プロジェクターなど
丸伊製材 中之条ビエンナーレ(群馬)

撮影 柳場 大

展示場所のある沢渡地区を散策していた際、山道で杖をついて歩いて来た女性と知り合った。その出会いは、私の抱いていたハンディキャップがあつて歩けないというネガティブな杖のイメージを、歩いてゆくための道具という肯定的なものへと変化させ、作品のモチーフに杖を使いたいと思うようになった。町内を廻って130本以上の杖を撮影させてもらうなかで、この地区が過去に大火事と大洪水の被害に遭った場所だと知る。当時のことを住民から聞いていくうちに、この土地に、そしておそらくあらゆる土地にも同じように、灰に帰し、水に流されても続いていく生活の強さが染み渡っているのだと実感した。

作品は、一階の居間・土間・浴室、二階から成り、立ち上がった寝転んだりする人の動き、土地の高低差、水面の上昇下降、陽の昇り沈みといったさまざまな「起伏」をめぐる空間になっている。





一階北側土間

蚊帳を地面から浮くように吊るし、中には両足を型抜きした石膏板がある



浴室

庭の薬草(どくだみ)を使った石鹸



二階

町内を廻って撮影した、実際に使われている(いた)杖134本の写真を、スライドショーで投影している。







杖先、新しい小径のためのドローイング
Drawing for the End of a Cane, a New Path

2013年 紙、ボールペン、コンテなど

杖先、新しい小径
The End of a Cane, a New Path

2013年 石粉粘土、アクリル絵具、水性インク、銀糸など
ACID NATURE 乙庭(群馬)
撮影 早川純一





杖をついた痕がところどころに施されている。





柄、杖先、新しい小径

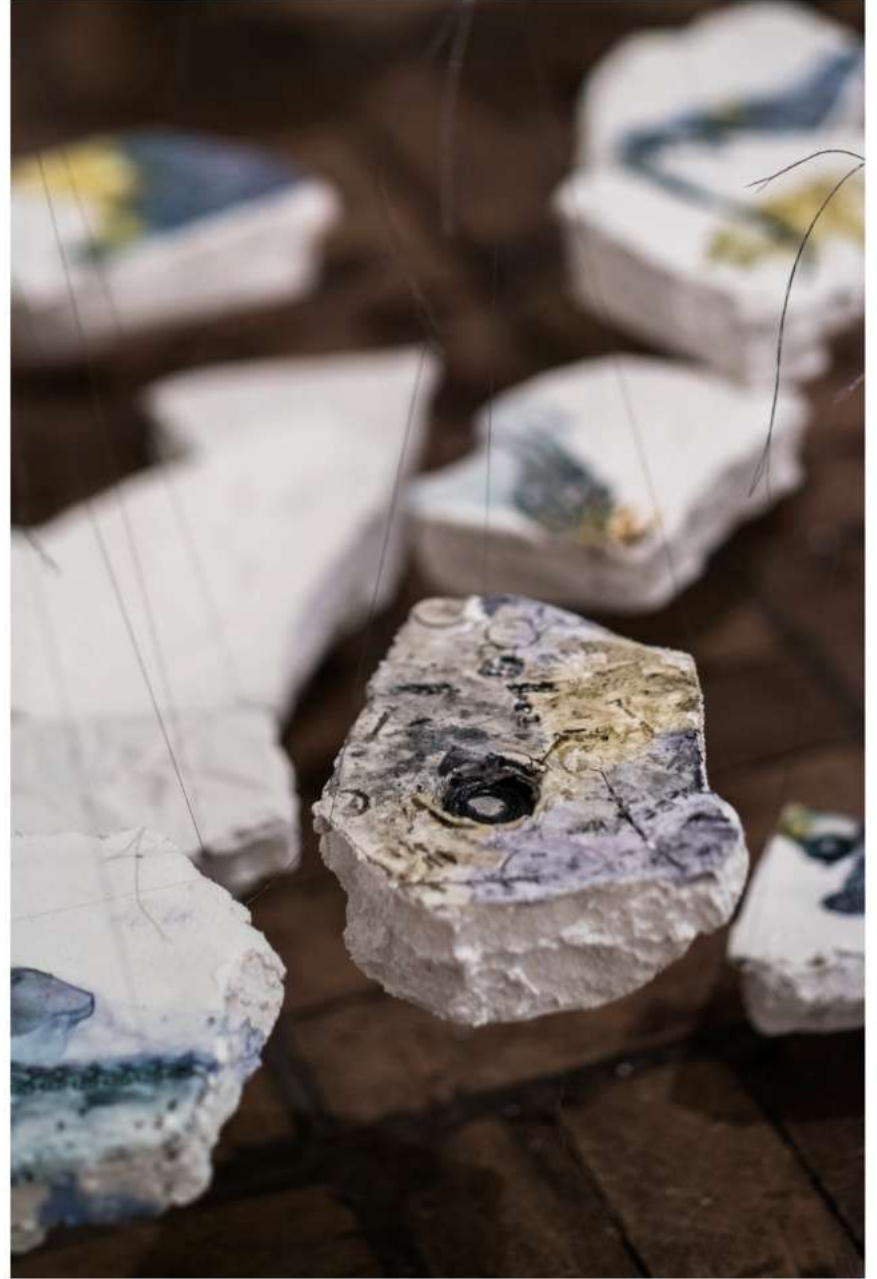
2014年 同時代ギャラリー(京都)

石粉粘土、アクリル絵具、銀糸、プロジェクターなど

サイズ可変

撮影 表恒匡

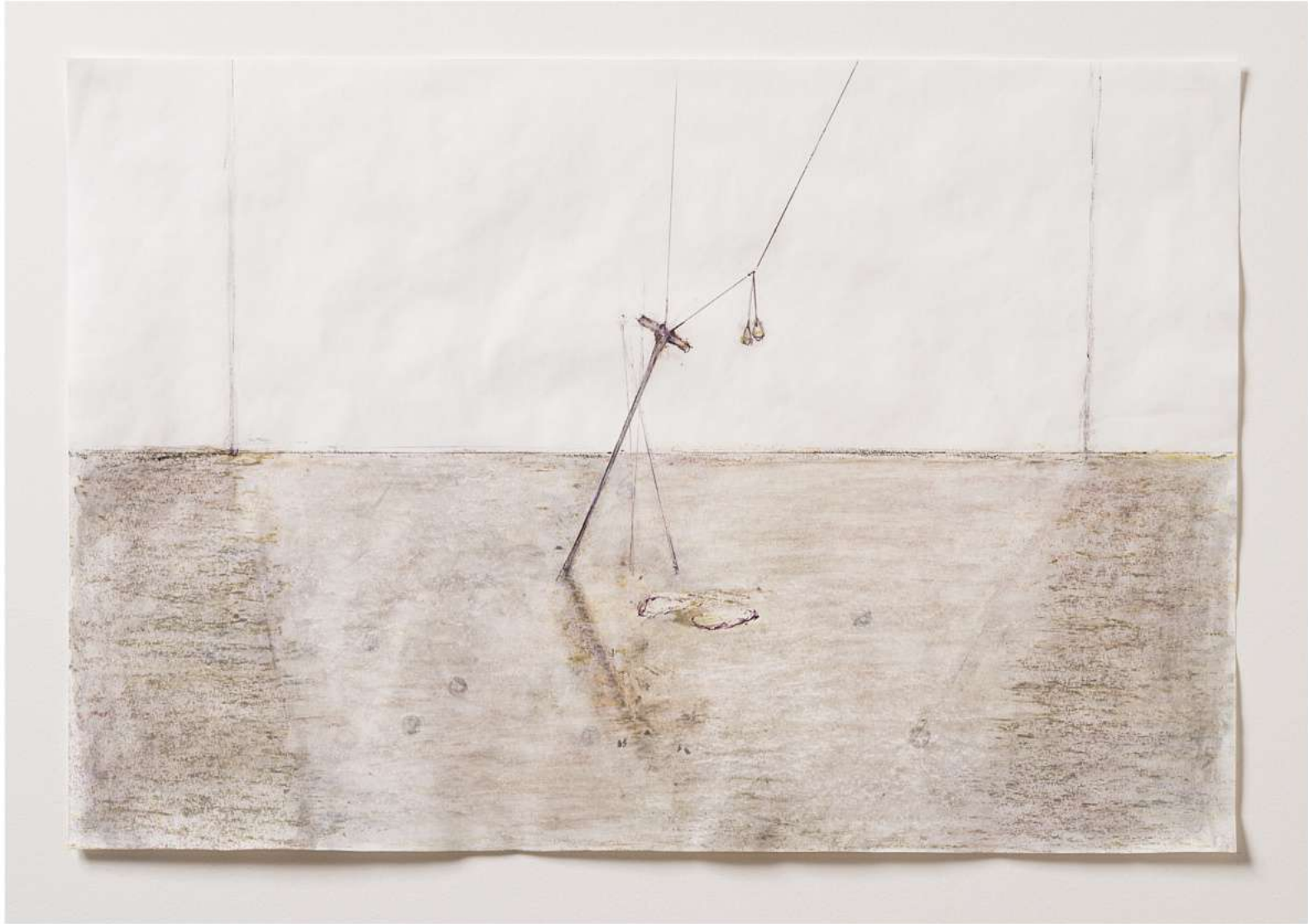




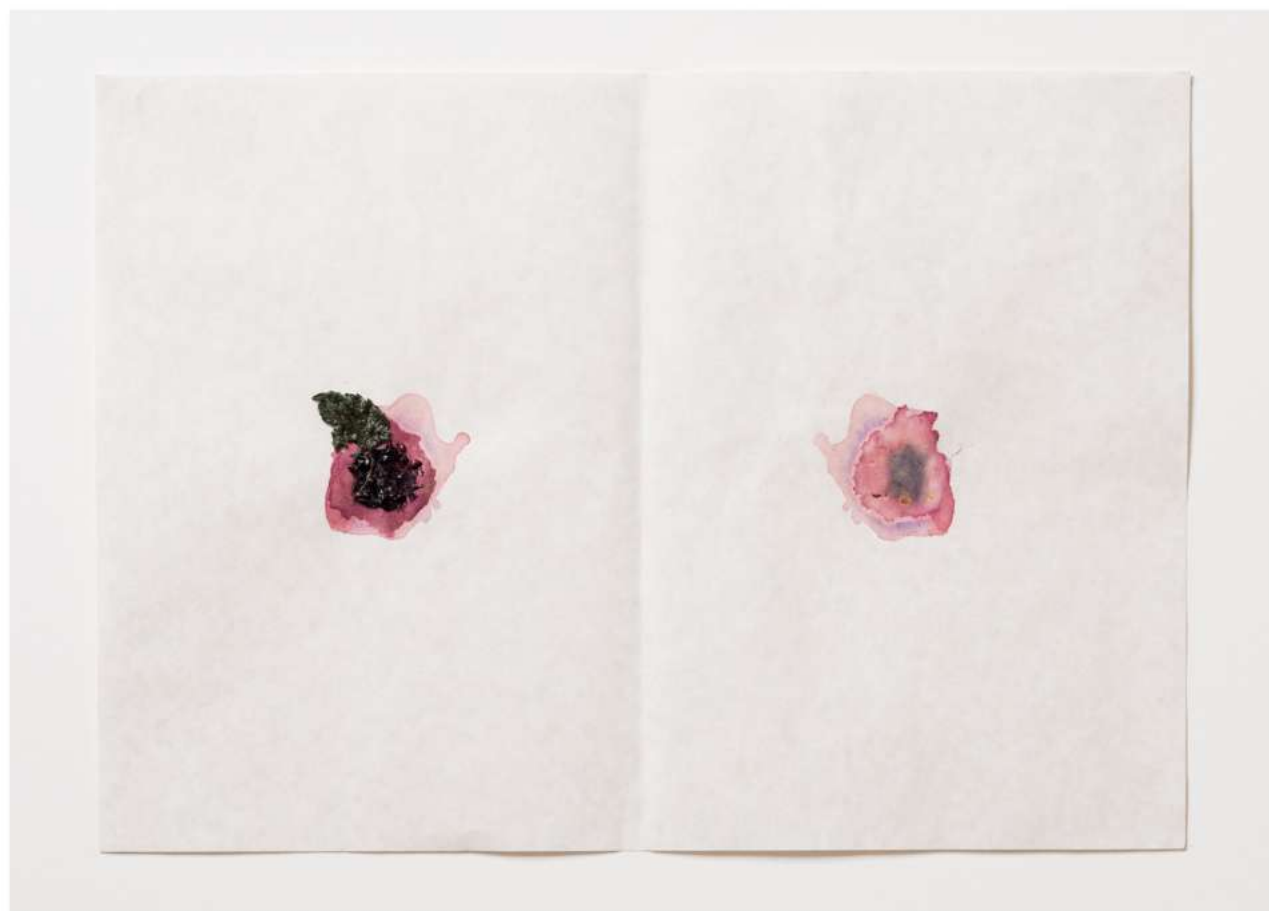
歩行の間隔に合わせて、杖先の跡がところどころについている。







歩行のためのドローイング 2013年 25×36cm 紙、ボールペン、コンチなど



歩行のためのドローイング

2014年 20×29cm 紙、木の實



歩行のためのドローイング

2014年 18×24cm インクジェットプリントに加工



歩行のためのドロ잉
2013年 16.8×13.4cmインクジェットプリントに加工



歩行のためのドロ잉
2013年 21×15.6cmインクジェットプリントに加工

COLLECTING TIME

2014年 The Espace Cheminée nord / ジュネーブ、スイス

同時代ギャラリー(京都)×Cheminée nord(ジュネーブ)による交換プログラムの第一回目のアーティストとして選出され、ジュネーブで約2ヶ月滞在制作をした。

成果発表展である「COLLECTING TIME」では、インスタレーション作品「Knocking on the Land」を展示。

“「COLLECTING TIME」展のために作ったインスタレーションの題名は「Knocking on the Land」とした。人々のもつ杖先と、最終的に500個を超えた種が、地面に「How are you?」とノックしているイメージからつけている。一瞬の「接触」と「落下」の反復を、ノックという行為になぞらえることによって、自分たちが立っている地面がどんな場所なのかを問う。それは私自身の滞在の姿勢でもあったと思う。”

(記録集より抜粋)



Knocking on the Land のためのドローイング 2014年



17, Sep. 2014 朝食

プラム、洋梨



Knocking on the Land (cane)

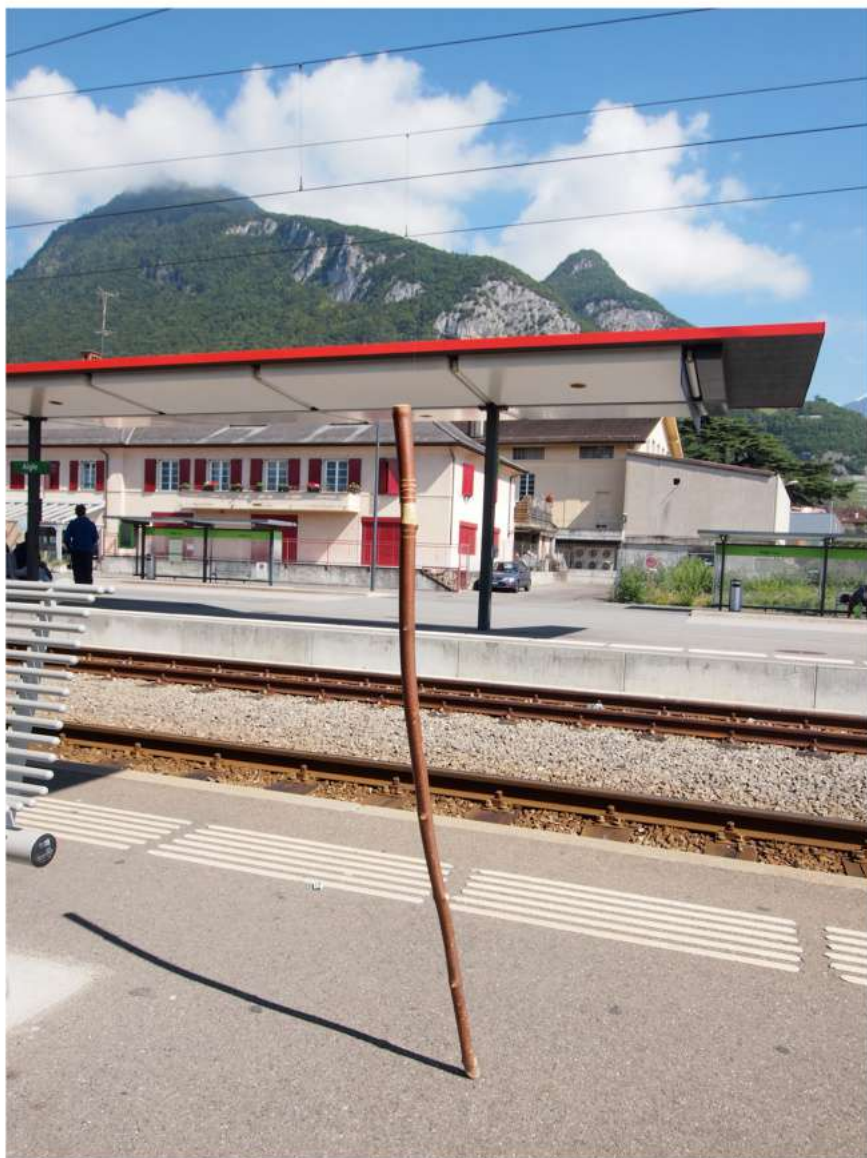
2014年 プロジェクター、コンテ、寒冷紗

スイス各地で撮影した杖の写真と、前年に日本で撮影した写真をスライドショーにして、交互に壁に投影した。壁には、撮影を依頼したときに使った「Est-ce que je peux photographier votre canne? (あなたの杖を撮影させてもらえますか)」という言葉が記してある。

Est-ce que je peux photographier votre canne?



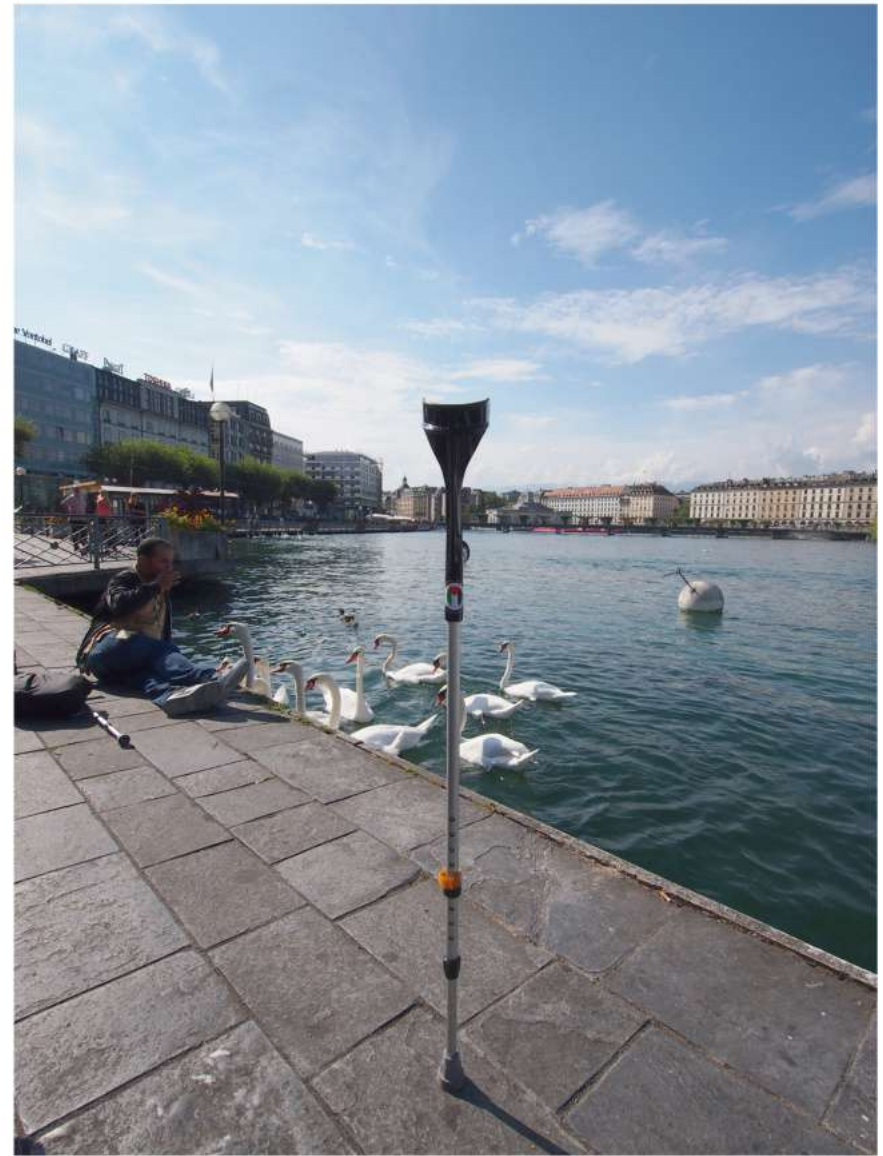
スイスでは112本の杖を撮影した。











Knocking on the Land - Kawaguchi

2016年 メディアセブン（埼玉）

駅から近く、広いワークスタジオをもつメディアセブンは多彩なワークショップ、市民講座を活発に行っており、様々な年代のひとたちが行き交う場所である。

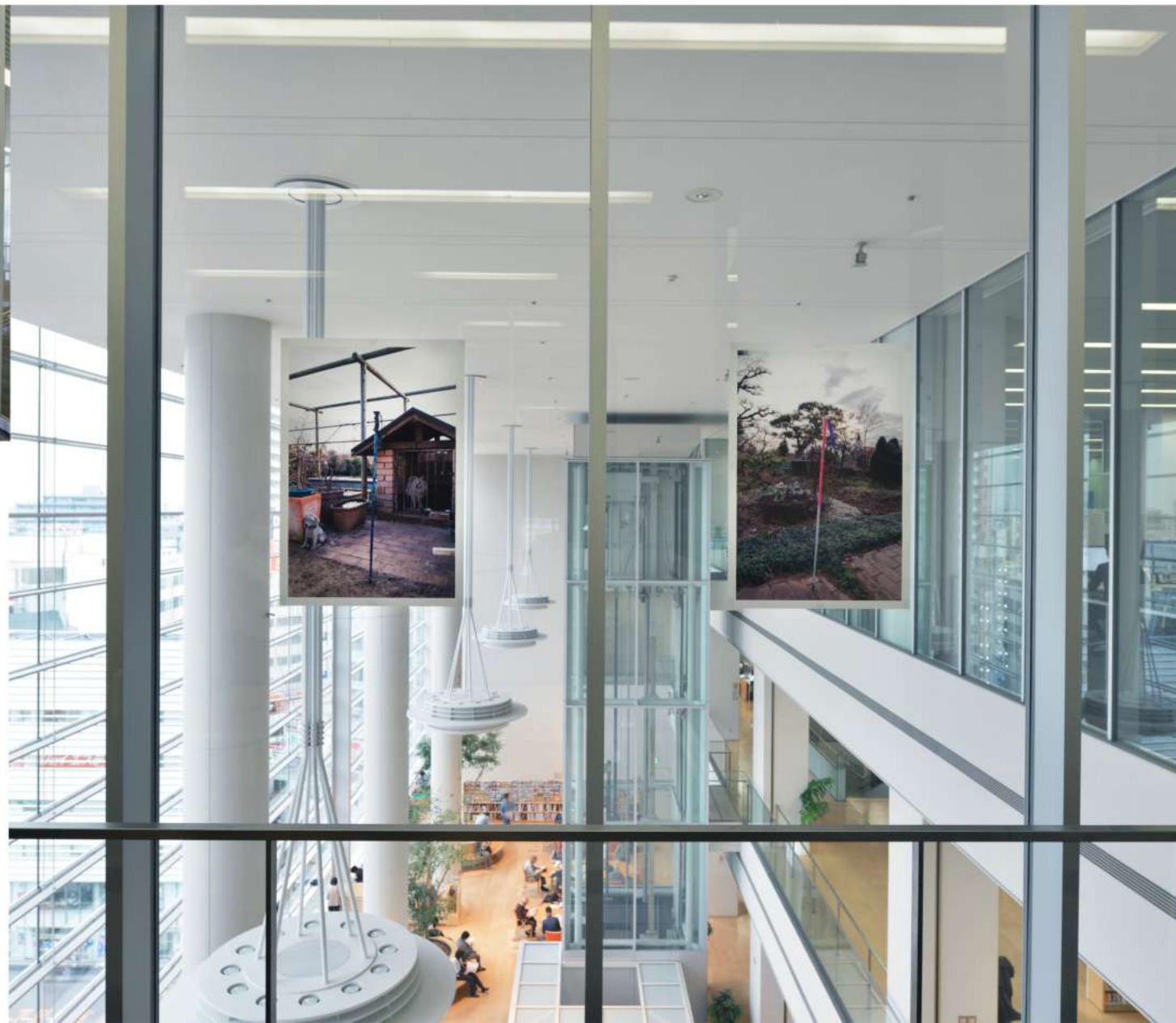
壁面、休憩室、廊下など、フロア内に作品を点在させ、通りがかるひとにも自然に眺められるような構成にした。

川口市立アートギャラリー・アトリア10周年記念展

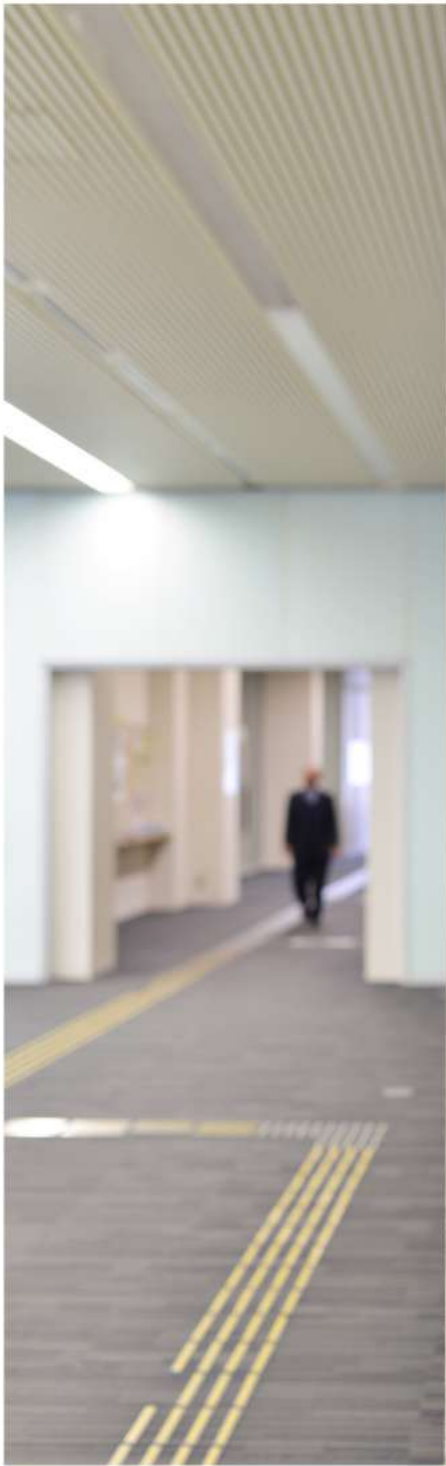
「ここにもアート川口」出品作品



2014年から各地で行っている杖の撮影プロジェクトを川口市内で行った。約90本の杖の写真のライドショーとともに、ポスター状に印刷した写真を展示している。











杖を撮影した場所の風景に、地面を叩いたり擦り付けたりし続ける杖先の様子を重ねた映像、ピンを打った地図、杖（市内で拾った枝）を展示している。





「行進、ただし自由な手足で」

2016年 枝、布、鏡、プロジェクター、スピーカーなど
撮影 早川純一

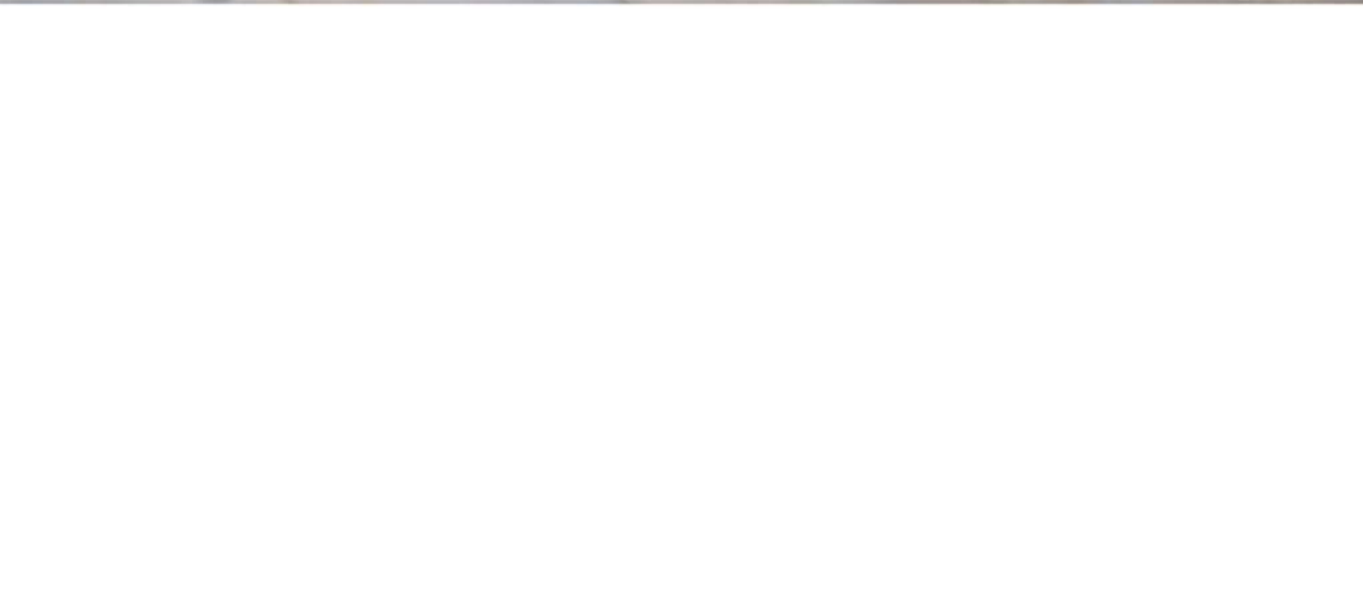
「ここにあるもの（こと）／ここにはないもの（こと）」 出展作品

旧門谷小学校（愛知）

鏡と映像、杖によって構成された「行進、ただし自由な手足で」、地元の民話をベースにした「鹿と足袋」、ドローイング「たいらさをめぐる - 少年」の3作品から成るインスタレーション作品を滞在制作した。





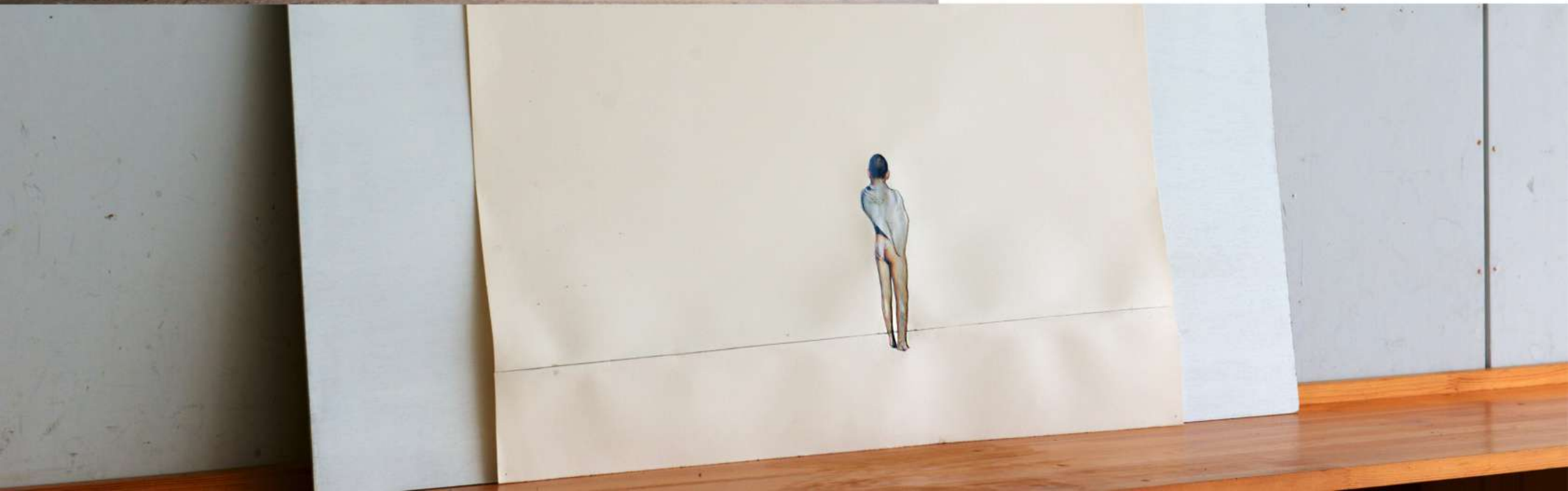




地面を叩いたり、草をかき分けたりしている二本の枝先の映像。
残像効果により、2,3,4本と本数が増え、鹿の肢のようにも見える。



「たいらさをめぐる - 少年」
2006年
雑誌の切り抜き、紙





人類が直立二足歩行を始めてから600万年たつという。
両手の解放。それは進化のはじめの大きな選択だった。
その自由が道具を生み出し、ヒトを人たらしめていく。

日本各地に生息している鹿は、この周辺にも多く棲んでいる。
伝承された民話*を読んだ夜、響き渡る甲高い鹿の声を聴くと、
民話に血肉が通うようであり、
明けた朝に土地を歩けば、自分の身体もなにかを語りたくなってくる。

大きくなった脳を抱え、時に不合理さを選んでいく二足歩行の人間は、
それでも野性を失ってはいない。
身体のどこかにひっそり棲むその呼び声を聴き、
そのために両手をつかうこともできるだろう。

*会場のある地域には、鹿の産んだ人間の子が和泉式部となり、その足が二つ指であることを隠すために足袋が生まれたという民話がある。同じような民話は全国各地に残る。

和泉式部は、鹿から生れた鹿の子であったので、生れながらに足の指が二つに割れてゐた。
それを隠すために母は足袋を発明して娘にはかせたといふ。（柳田国男・和泉式部の足袋）





束ねと解けのあるところ

2018年 杖、草、布、ハサミ、綿紐、ワイヤーなど 撮影: 早川純一 Gallery HAM (愛知)



パフォーマンス < 束ねと解け >

2018年5月12日
杖、草、布、ハサミ、靴、綿紐、
レインコート、ワイヤーなど

撮影: 廣瀬育子

Gallery HAM (愛知)

個展「軸/杖/茎」の初日に、パフォーマンスを行った。

吊るされた草の束を切り、そこに隠れていた4本の白杖を見つけ、地面に敷きつめた布とともに再配置して、インスタレーション作品を完成させるという時間だった。

その日から始まった6週間の会期中、草は布と杖とともに横たわりゆっくりと枯れていった。

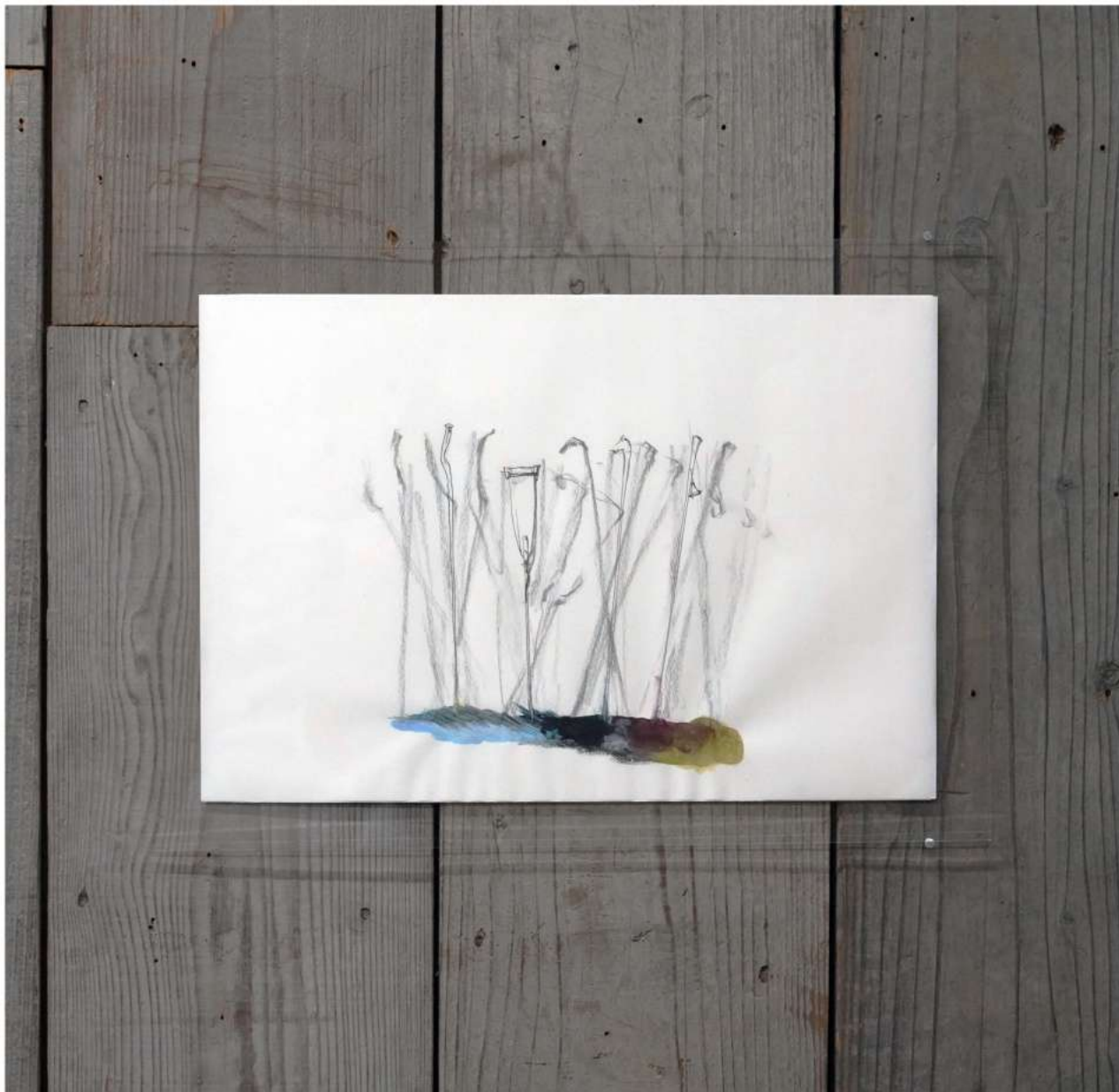




夏の絵

2018年 草、絵筆、ガラス瓶など





4本の杖のためのドローイング

2018年
紙、ペン、木炭、アクリル絵具



草叢に失くした杖のためのドローイング

2018年
紙、アクリル絵具、木炭など



東ねと解けのためのドローイング

2018年
紙、ペン、木炭、コンテ、アクリル絵具など



束ねと解けのためのドローイング

2018年、紙、ペン、木炭、コンテ、アクリル絵具など

彼、あるいは彼女は、富士山に登った

2019年

インクジェット プリント

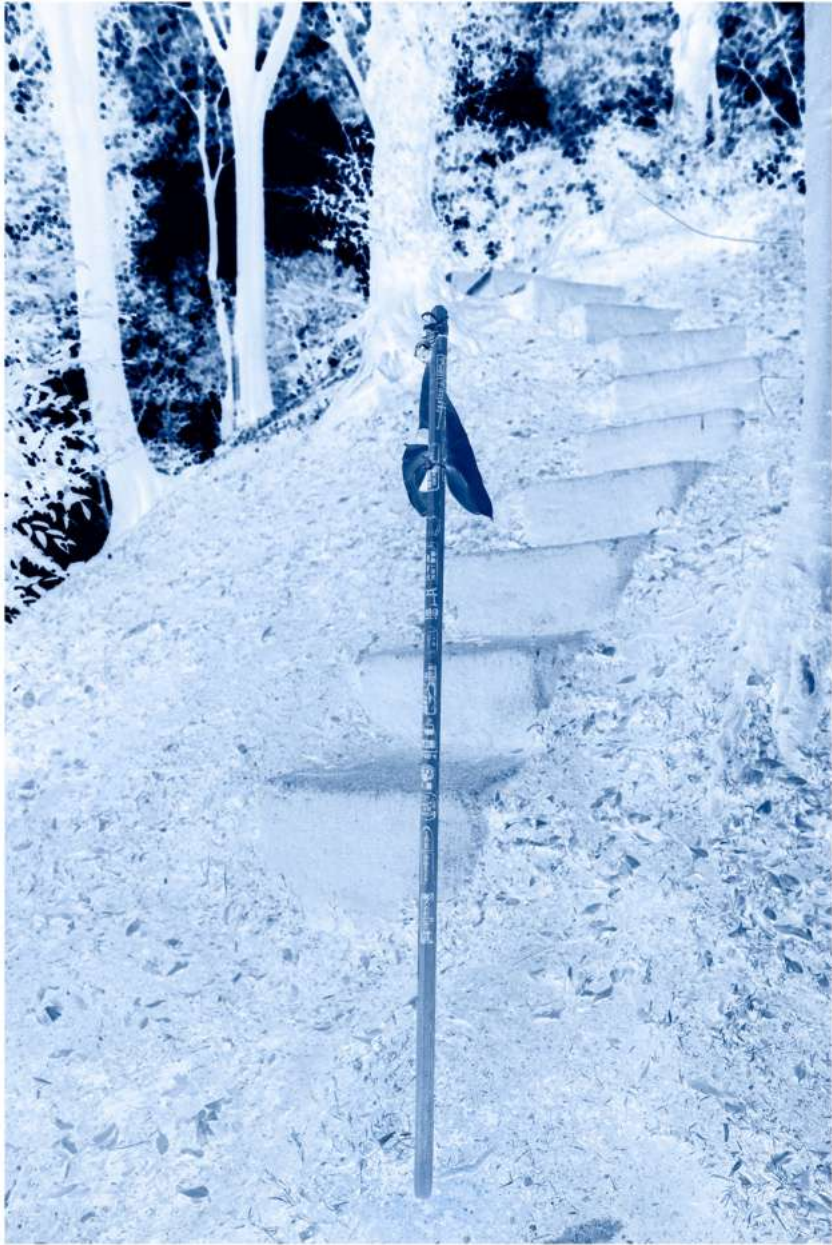
埼玉県川口市で撮影した富士山やその信仰に関する3本の杖



a、かつて富士登山時につかったという八角の金剛杖（場所：川口銀座商店街）

b、木曾呂の富士塚に立つ八角の金剛杖（川口市教育委員会所蔵資料）

c、小谷三志の杖（川口市教育委員会所蔵資料）



b



c